

修学院小学校運営協議会だより

第25号 学校運営協議会理事長 青木 克之 修学院小学校長 村山 雅彦
令和4年3月22日発行 家庭数配布



啓蟄の候、保護者の皆様には、健やかにお過ごしのこととお喜び申し上げます。

今年度も、終わりに近付き、学校評価のまとめをご報告させていただきます。今年度も、児童の安全を第一に考え、学校行事等の中止や変更が多く、評価しにくい中でのご協力に心から感謝いたします。

来年度に向けて、新しい生活様式の中で、児童の安全を守りながら学校運営を考えてまいります。貴重なご意見に感謝いたしますと共に、さらなるご理解とご協力をどうぞよろしくお願ひいたします。

学校安全環境委員会

学び支援委員会

開かれた学校委員会

前回の学校運営協議会だよりでお知らせした通り、今年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の対策として、例年行っている活動や取組を中止しました。

今年度は3月に、子どもたちの手の届かない場所の窓ふき（清掃活動）を行うこととし、PTAやおやじの会の方々にご参加いただく予定でしたが、まん延防止等重点措置の延長を受け、残念ながら中止となりました。

来年度こそは、『きらら給食』や『本のリユース』など、子どもたちも楽しみにしている取組ができるることを願っています。

感染症対策はまだまだ油断ができない状態です。くれぐれも、体調管理をしっかり行っていただき、ご自愛ください。

修学院探訪

中国 司馬溫公甕割の伏見人形

かめの周りで戯れる3人の童。よく見みると割れたかめの低部から水しぶきとともに勢いよく流れ出る童の笑顔が印象的である。一方、かめの左には右手に石を持った童が見える。彼こそが、表題にあげた中国 北宋の政治家・歴史家・儒学者である司馬温公である。幼少期に父が大切にする水がめに落ちた友を助けるために、かめを石で割り友を助けた。父は叱正するどころか、「器は軽し、人命は重し」と温公を褒めたたえた。この人命尊重の思想が、江戸時代後期における道徳・情操教育の素材として人形や絵画、磁器絵付、襖絵、山車などに採用された。今日の道徳教材としても色褪せていない。（小池 寛）



開かれた学校委員会 コミュニケーションシート（学校アンケート）より

今年度も、新型コロナウイルス感染症予防のため、多くの行事や取組が中止となる中、参観授業が実施できず、保護者の皆様に学習の様子を参観いただけなかつた1年となりました。

そんな中でも、運動参観や学習発表会、オンライン懇談会など、保護者の皆様のご理解や協力を得て実施することができたことは、大きな喜びでもありました。アンケートも、なかなか評価しにくいところもあったとは思いますが、お子たちの様子を見ながら評価していただき、感謝申し上げます。

学校運営協議会の『開かれた学校委員会』において、昨年度、および、前期のアンケート内容と比較しながら、アンケートの結果分析を行いました。アンケート結果を基に、今後の学校の取組に活かしてまいります。

学校運営協議会だよりでは、『確かな学力』『豊かな心』『健やかな体』の各項目から抽出してお知らせさせていただきます。また児童や保護者の方の結果の数値（%）だけではなく、実際に保護者の皆様からいただいた、自由記述にも検討課題があると考え、今回は自由記述の内容を中心に検討した結果をお知らせさせていただくことといたしました。

なお、記述内容を掲載する関係で、表・グラフ等を割愛させていただきます。結果について分かりにくい部分もあるかも知れませんが、ご了承ください。貴重なご意見、本当にありがとうございました。

確かな学力定着に向けて～家庭学習と 読書の習慣を～

＜結果＞

前期同様、全ての項目において、肯定的な評価を得ることができます。「読書」の項目では、低学年で3%上りました。

しかし、「家庭でも自分で時間や内容を決めて学習を進めている」の項目で「よく出来ている」と答えた児童の割合が低くなりました。

＜分析＞

すべての項目において肯定的な評価が多いが、高学年になるにつれて、部活動や習い事などの機会が増え、家庭学習と読書に取り組む時間確保が難しいのかも知れません。一日の生活習慣をうまく整えることが大切です。

＜学校より＞

下校後も、学校の宿題や読書・習い事等、部活動はなかなか実施できない中でしたが、子どもたちは忙しく過ごしているようです。時間を大切にする意味も込めて、一日の生活の中で、どの時間に学習するのか、余暇を過ごすのか等を決め、習慣づけていくことが大切になります。学校においては、すべての教科領域で「めあて・見通し」の確認や、子ども同士が協働的に行う「まとめ」と「振り返り」を取り入れて、思考力・判断力・表現力等の効果的な育成を図り、子どもたちが「学ぶ楽しさ」「分かる喜び」が実感できる授業づくりを進めています。

豊かな心を育むために～人を大切にするために 一人一人ができること～

＜結果＞

前期同様、全ての項目において、肯定的な評価を得ることができます。「あいさつ」の項目では、高学年で5%上がりました。「お互いの頑張りや良さを認め合える学級になっている」の項目では、低学年で3%上がりました。

しかし、「学校であった出来事を家の人伝えているか」の項目で「よく出来ている」と答えた児童の割合が少し低くなりました。

＜分析＞

マスク着用での生活にも慣れ、「あいさつ」が少しづつ自分からできるようになってきたと思います。高学年の児童が、校内で積極的にあいさつする姿が見られます。学校全体にあいさつの輪が広がればと思います。

友達の輪が広がったことが、「お互いの頑張りや良さを認め合える学級」へつながったのではないかでしょうか。

＜学校より＞

あいさつをすることに対して、恥ずかしさや抵抗感を感じている子たちもいるようです。まずは大人が気持ちの良いあいさつをしている姿を見せ、あいさつの輪を広げていきたいと思います。「会釈をする」「目を合わせて頭を下げる」などのあいさつの仕方も認め、お互いが気持ちよく生活できるように努めたいと思います。

今年度は、12月にドッジボール大会等のたてわり活動が実施できました。コロナ禍で多くのことが制限を受けましたが、来年度も感染症対策を徹底した上で、異学年集団での活動も計画していきます。

健やかな体で楽しい毎日を～よりよい学校生活は、 健康な体づくりから～

＜結果＞

前期同様、ほとんどの項目において、肯定的な評価を得ることができます。「人に優しく接している」の項目で、低学年で1%，高学年で5%「よく出来ている」と答えた児童が増えています。

しかし、「早寝・早起き・朝ごはん」の項目で、「出来ていない」と答える児童の割合が1割程度います。

＜分析＞

休み時間になると、大繩やボール遊びなどを使って、体を動かして遊んでいます。マスクの着用等の制限はありますが、遊びを通して友だちの輪が広がった結果だと思います。

テレビやスマホ、ゲームなどを長時間している児童もいるようです。時間を決めて使うなど対策を考えてもらいたいです。

＜学校より＞

コロナ禍の生活も2年以上が経過しました。子どもたちも、マスクの着用や手洗い、黙食等の新しい生活様式にも慣れてきました。今後も、安全面に十分気を付けて、安心して楽しく学校生活を送ることができるよう、児童の様子をしっかりと観察し、サポートしてまいります。

自由記述より

※紙面の関係上、ご意見が多数の場合や、文章表記について、一部省略・加筆等させていただいております。

◇先生には、子どもの全てを温かく受け止めていただき、子どもはいつも安心して学校生活を楽しめています。子どもを肯定的に受け止めてくださる担任の先生の言動がクラス全体の子どもたちに良い影響を与え、温かいクラスになっていると感じています。

⇒大変うれしいお言葉ありがとうございます。今後とも、子どもたちの様子を丁寧にみとり、安心して学校生活を送ることができるように指導・支援してまいりたいと思います。

◇学校でどのような指導をされているのか、授業の様子を見る事もできず、よく分からぬことが多いです。そんな中でも、少しずつ、学年間、他学年での交流機会が増えてきて、放課後、校庭で遊べるようになり、わずかな時間でも友だちとの交流時間が増えたことは有り難く思っています。

⇒今年度も授業参観が実施できず、大変申し訳ない気持ちでいっぱいです。個人情報や肖像権の観点から、児童が映る授業を動画配信することも難しく、授業参観については中止となりました。そんな中ですが、感染状況が落ち着いている時期に、ドッジボール大会等の異学年交流ができたことは大きな成果の一つでした。

◇修学院離宮道を通る車がスピードを出していることがよくあり、気になっています。ガードレールの設置や路面に制限速度を表示するなど、何か工夫はできないでしょうか。

⇒ご意見いただきありがとうございます。子どもたちの安全を守るための取組は、下鴨署・見守り隊・PTA等の方々と協力して実施しております。ガードレールの設置等のお願いを、引き続き関係機関にしていきたいと考えております。

◇今回のアンケートは、コロナ以前からのアンケートだと思います。コロナで学校も先生も子どもたちも大変な思いをしていると思いますので、アンケート内容を考え直し、何を大切にしているのかをアンケートから読み取れるようにしてほしいです。

⇒アンケート内容の見直しを求めるご意見は、他にもございました。ニーズに応じたアンケートになるよう、開かれた学校委員会の委員の皆さんと検討していきたいと思います。

開かれた学校委員会の委員の皆様より

◇アンケート内容の見直しは、開かれた学校委員会の中で検討いたします。来年度のアンケートに反映していきます。

◇子どもたちの様子を参観できない状況でしたが、保護者が学校に来校できる方法を模索し、家庭との連携を進めていってもらいたいです。

◇今年度もコロナの感染状況が落ち着かず、活動が制限されていました。これといった活動ができず申し訳なく思っています。

◇学校はコロナ禍でかなり頑張っていたと思います。子どもももちろん。このようなマスク生活がいつまで続くのかわからないが、これからはウィズコロナの中でのあるべき学校の姿、家庭の姿を考えていくべきだと思います。